

「オールワークスメイドの特別なお仕事 一時間目」 作 300y's

はじめまして♥

メイドのエリィと申します♥

いきなりですが、

これを聴いているメイド好きのご主人様なら、

昔、雑役女中と呼ばれ、

家事全体を任されたオールワークスメイドのことをご存知ですよね？

(もったいぶる)

ちなみに…。

私(わたし)のことです♥

(誇らしげに)

中でも私は…特別♥

スペシャルなオールワークスメイドだったりします♥

冗談でも嘘でもありません♥

(そそらせるように)

「特別」にご興味がありましたら♥

ぜひぜひ♥

ご主人様のご帰宅のご予約、心よりお待ちしております♥

× × ×

某所地下。

私はいつもこちらでご主人様と特別な時間を過ごしております。

(両開きの木製ドア：開)

「お帰りなさいませ♥ ご主人様♥

本日はご予約ありがとうございます♥」

緊張気味な表情のご主人様を笑顔でお出迎え。

「メイドのエリィがお部屋までご案内します♥」

優しく腕を取り、ふかふかの絨毯が敷かれた廊下を連れ立って歩きます。

(歩く音)

「こちらです♥」

行き止まりに見えた壁が自動ドアのように開いていきます。

(ドア：開)

驚くご主人様を部屋の中へといざないます。

「ご主人様のお部屋はいつ来てもステキ♥

世界的な高級ホテルのスイートルームにも負けていません♥」

豪華すぎる部屋に圧倒されるご主人様。

「お召し物を脱がせていただきますね♥」

固まっているご主人様の背後に回り、手を伸ばします。(SE：触る)

「(慌てつつ、冷静に心配する)

ご主人様の背中…っ。

すごく硬いです…。(SE：触る)

カチカチでコチコチ。(SE：触る)

かなりお疲れ…ですね (SE：触る)」

眉をひそめながら背中を撫で回します。(SE：撫で)

「(囁き) メイドに…お任せください♥」

自信にあふれた顔で豊満な胸を背中にむにゅう。(SE)

メイド服から半分以上露出したおっぱいでご主人様の不安を和らげます。

「頑固なコリにこそ、

(囁き) あ、ま、い、じ、り♥」

抱きついたまま、左右から手を伸ばし、

そっと乳首をつまみます。(SE)

「ご主人様の乳首がコリコリとがるほど♥

体のコリもなくなっていくます♥

本当ですよ…？♥

(嬉しそうに)

つついて…♥ (SE)

うにうに♥ (SE) うにうに♥ (SE)

んん…♥

ひねって…♥ (SE)

ぐにぐに♥ (SE) ぐにぐに♥ (SE)

ああ…♥

いい感じにほぐれていくのがわかります♥ (SE)

(囁き)

たまに強くいじると、効果バツグン♥ (SE)

あっ♥

ご主人様っ♥

急に歩いたら危ないです♥」

とててっと前によろけるご主人様を追いかけ、あまいじり続行。

「(嬉しそうに)

つまんで…♥ (SE)

くにくに♡ (SE) くにくに♡ (SE)

ンン…♡

こねて…♡ (SE)

ぐりぐり♡ (SE) ぐりぐり♡ (SE)

わあ…♡

ご主人様のお腰、勝手に動いております♡ (SE)

(囁き)

なぜか、えっちに動いてます♡ (SE)

(やや煽り)

ご主人様…♡ (SE)

もしかして…気持ちいいんですか？♡ (SE)

メイドはただ、コリをほぐしているだけですのに♡ (SE)」

ひときわ強い力で乳首をねじるとご主人様は声を上げます。

「メイドはわかっています。

原因はココですね♡」

乳首から手を離し、ご主人様の股間に手を伸ばします。

「いつの間にか、カチカチでコチコチ♡

コリすぎですご主人様♡」

さわりとひと撫で。(SE)

ご主人様は体をビクッと震わせます。

「頑固なコリをほぐしますので、こちらをお向きください♡

(ゆっくり囁き)

メイドにお見せください♡」

ご主人様はもじもじしながら、くるり。

私と向き合います。

「どうぞ♡」

にっこり笑顔で脱衣を促します。

ご主人様はまごまごしながら、こくり。

ズボンを脱ぎ、(SE：脱衣) テントを張ったパンツに手をかけ、私を見つめます。

「(ゆっくり)

どうぞ♡」

にっこり笑顔で脱パンツを促します。

覚悟を決めたご主人様は力強くパンツを下ろします。(SE：脱パンツ)

ぶるんと飛び出る勃起ちんぽ。(SE：ぶるん)

「わあ♡ すごっ♡」

バキバキのちんぽに目が釘付け。

「驚くくらいコッてます♥ コリすぎです♥」

ちんぽをツンツン。目を細めます。(SE)

「きっちりすっきりヌキヌキしないといけませんね♥

(囁き)

ですが…♥

疲れたご主人様にとって、
時間をかけて空っぽになるまで何度もお射精させるのは、
負担にしかありません」

頷くように跳ねるちんぽ。

「おわかりのようです♥

では、どうすればいいのか?♥」

勃起ちんぽにふんわりタッチ。(SE)

「おちんぽへの負担を抑えた刺激でまず一回お射精させます♥

続けて、しっかりとした刺激で二回目のお射精♥

二段構えの連続お射精♥

こうすることでお金玉の中のお精液は空っぽ♥

コリもなくなります♥

メイドは嘘は申しません。

どうぞこのまま♥ あまいじられてください♥」

つるつる亀頭。(SE)

むっちりカリ首。(SE)

ごくぶと肉竿。(SE)

ふにふにお金玉…。(SE)

「(ゆっくり)

捕まえた♥

もみ♥ (SE) もみ♥ (SE)

い〜揉み心地♥

もみ♥ (SE) もみ♥ (SE)

メイドはこの揉み心地が好き♥

もみもみ♥ (SE) もみもみ♥ (SE)

お金玉のふにふにが大好きなのです♥

もみもみ♥ (SE) もみもみ♥ (SE)

(ゆっくりリズムカルに)

もみもみ♪ (SE) もみもみ♪ (SE) もみもみ♪ (SE)」

もみもみするほどご主人様の腰ががくがく。ちんぽビクビク。

「新しいダンスですか?♥」

踊りにも見える動きに草が生えます。

「なんだか楽しくなってきました♥
今からメイドの左手は甘える子猫♥
おちんぽにじゃれつく子猫ちゃんです♥」

金玉をもみもみしながら、空いてる方の手もあまいじりに参加。

(BGM：金玉もみもみ：始)

「(ゆっくり)
手の甲で♥ こするようにじゃれつきます♥ (SE)
指の腹で♥ すべらかにじゃれつきます♥ (SE)
掌(たなごころ)で♥ さするようにじゃれつきます♥ (SE)」

じゃれつくほどご主人様のお御足がくがく。ちんぽヒクヒク。

「ダンスがどんどんお上手になりますね♥」

ガマン汁を漏らしながらのダンスに大草原です。

(SE：あまいじり)

「もっと楽しいことを思いつきました♥」

私はおもむろに胸を大きく上下に揺らします。

(SE：ゆさり)

ギリギリ隠れていた豊かすぎる生乳(なまちち)がボロン。(SE)
ご主人様の前に放り出します。

「(やや照れつつ)
お好きにしてください♥」

予想外の大胆行動に口あんぐりのご主人様。

「メイドはお金玉♥ ご主人様はおっぱい♥
仲良くもみもみ♥ ゆるゆるに刺激しあいま…。(SE)
(驚く) あっ♥」

言い終わる前に、つままれる乳首。

「そんなっ♥♥
(やや感じつつ)
メイド自慢の豊乳をスルーっ♥ まさかの乳首…っ♥ (SE)
(感じつつ)
ああっ♥ (SE)
しかも♥ (SE) お上手っ♥ (SE)
メイドのはしたなくとんがった乳頭っ♥ (SE)
グニグニつまむっ…!♥ (SE)
はあっ♥ (SE) あっ♥ (SE) ああっ♥ (SE)

グイグイ押しこむっ…！♥ (SE)
いっ♥ (SE) ひゃん♥ (SE) んんっ♥ (SE)
グリグリひねっ…！♥ (SE)
ええっ♥ (SE) あっ♥ (SE) あんっ♥ (SE)
コスコス…っ！♥ (SE)
あぁっ♥ (SE) んひっ♥ (SE) あん♥ あぁう♥ (SE)
そっ、そんなされたらっ♥ 乳首イキしちゃいますっ♥ (SE)
乳首よわよわメイドで申し訳ありませんっ♥ (SE)

あ…！♥
なんて言ったら♥
ご主人様も…そろそろなご様子っ…♥
メイドにはわかりますっ♥
この金玉の具合はお射精が近い証拠っ♥
いっ一緒にイキましょうっ♥
(キスしながら／感じつつ)
ん♥
んんっ♥
ご主人様っ♥ 乳首ギュってしてえ♥ (SE：以下 BGM)
んんんっ！♥
それっ♥ 好きっ♥ ンっ好きっ♥ んんんっしゅきい…っ♥
(キス途切れる／感じつつ)
メイドのおっぱいっ…いっぱい好きにしてっ！♥ ぐちゃぐちゃにしてえっ！♥
(イキかけながら必死の献身)
あぁっ！♥ イクううっ！♥♥
ご主人様もっ！♥ お射精っ！♥ くださいっ！♥
どうぞっ！！♥
どうかっっ！！♥♥
イッ♥♥♥ グうっっ…！！♥♥♥ (語尾で昇天)」

(金玉&乳首 BGM：終)
(射精)

抱き合ってる私のお腹にどくどくっ射精。
メイドの服をはしたなく濡らします。

「(整息しつつ)
はぁ♥ はぁ…♥♥ はぁ……♥♥
ご主人様といっしょにイけましたぁ…♥ 嬉しいです…♥
(うっとり感心しつつ)
あぁ♥ すごい…♥
ゆるゆるの刺激で…こんなに…いっぱい♥」

メイド服に広がる精液のしみにうっとり。

「(我に返る)
いけませんっ」

慌ててちんぽに視線を向けます。

「うっとりしている場合ではありませんでした…っ」

私はちんぽの太さ、熱さ、硬さがわかるくらいしっかり握ります。(SE)

「一回目とは正反対っ！

手加減なしのつよ手コキで二回目のお射精を決めますっ♥」

「ご主人様のおちんぽの弱いところっ♥

しっかりっ♥ 強くっ♥

しごきまくりますっ♥

(つよ手コキ：始)

(得意げに)

ほら♥

あっという間♥

おちんぽぐっちょぐちょ♥

お精子とお漏らしガマン汁が混じって…♥

(うっとり)

くちゅくちゅぐちゅぐちゅ♪

音すっごいエッチ♥

ぐちゅぐちゅくっちゃくっちゅ♪

エッチすぎてずっと聞けます♥

ぐっちゃぐっちゃくっちゅくっちゅ♪

(興奮しつつ)

あぁっ♥ おちんぽ熱(あつ)っ！♥

メイドもっ♥ いろいろなところが熱いですっ！♥」

つよ手コキで興奮する私の鼻腔に届くおちんぽスメル。

「はぁっ♥ 匂うっ♥

お精子にまみれたちんぽの匂い…っ♥

(鼻で嗅ぐ) スンスン。スンスン。

あぁっ♥ 嗅いだけで孕みそうですっ♥

もし出来たら…♥ 責任とってください♥ ご主人様っ♥」

とたん、ちんぽを握る手のひらを震わす肉竿の奥の脈動。

「んふっ♥ いい反応ですっ♥

いいですよっ♥

二度目のお射精してくださいっ♥

メイドの顔を見ながらおイきくださいっ♥

発情しきったメイドのメス顔を見ながらお射精くださいっ♥」

つよ手コキラストスパート。

ひねりねじりを加えしごきまくります。

「全部っ！♥ 全部出ますっ！♥♥ ほらぁっ!!♥♥♥♥」

(射精)

「(射精寸前咥える)

ん…っ!!♥

(全部吸い上げる)

ちゅっ♥

ちゅぞぞぞっ♥

ちゅちゅううううううううっ♥

(ゆっくり嚥下)

ごっ……くんっ♥」

残らず精子を飲み干し、ちんぽから口を離します。

「(整息しつつ)

はぁ…♥ はぁ…♥

お精子がたっぷりすぎて…♥

はぁ♥ はぁ♥

ごっくんにお時間がかかってしまいました…♥

ふう♥

ですが…♥

ご覧の通り♥」

私はくたりと垂れ下がったちんぽに舐（まなじり）を下げます。

「頑固なコリもすっかりなくなったご様子♥

メイドもひと安心です♥」

放心状態のご主人様に口角を上げます。

「ご主人様…♥

疲れが取れてからが本番です♥」

つづく